

●水環境・河川・流域（2） （1-A-10-4～1-A-12-1）

本セッションでは、PFCs・PPCPs・農薬・炭化水素類など微量汚染化学物質に関する発表が5編、リスク評価に関する発表が1編行われた。

1-A-10-4 では、琵琶湖に流入する野洲川流域の本流・支流・工業廃水で有機フッ素化合物類（PFCs）を測定した結果、工業廃水中のPFCs構成をもとに、河川のPFCs発生源を予測する可能性が示唆されたとの報告であり、非常に興味深い内容であった。今後は、工業廃水からのより詳しいPFCs負荷量の調査等が期待される。

1-A-11-1 では、化学物質について物性値の分類を参考に点数を与え、その点数を基にスクリーニングを行うという報告であった。効率的なリスク管理をするにあたって、非常に有効な手段と考えられるため、今後はさらにパラメータを追加し、より精度の高いスクリーニング手法の開発が望まれる。

1-A-11-2 では、水稻除草剤であるプロモブチド及びその脱臭素体について、田面水・土壌での濃度変動等の挙動に関する報告であった。プロモブチド及びその脱臭素体は、水田の広さや散布状況で土壌吸着係数に変動が見られるなど興味深い内容であった。

1-A-11-3 では、内分泌かく乱作用の報告例もあるベンゾフェノン（BP）系紫外線吸収剤8種及び薬用石けんなどに使われ生活排水の指標として用いられるトリクロサンやその代謝物の一斉分析法確立、また、さいたま市内準用河川を対象とした実態調査報告であった。一部のBP系紫外線吸収剤については国内河川水中濃度の報告例がなかったため、貴重な測定データになると思われる。

1-A-11-4 では、新津川周辺において少量の原油が自噴しているため、その原油中に含まれるn-アルカン類の組成と新津川底質中におけるn-アルカン類の組成を比較し、由来の推定をするという内容の報告であった。

1-A-12-1 では、著しい経済発展を遂げている一方で環境汚染が問題となっている中国深セン市の、河川や海域におけるPPCPs37成分を対象とした汚染実態調査の報告であった。PPCPsの環境汚染は世界規模で問題となっているが、国内外を問わず、このような実態調査の事例が少ないため貴重な結果であると思われる。今後は、PPCPsの測定対象成分を増やし、より広範囲な地域において詳細調査が行われることに期待したい。

（福岡市保健環境研究所 小原 浩史）